

入江さちえ

後援会事務所 VOL45  
753-0214  
山口市大内御堀4728-4  
TEL 083-923-9703  
FAX 083-924-1263  
http://www.irie21.com  
発行人 栗屋 三郎

# 後援会だより



後援会 会長 栗屋 三郎

寒中お見舞い申し上げます。

この冬は、暮れの12月から厳しい寒さが続いています。皆様方には、呉々もお体に気を付けられますようお願い申し上げます。

さて、最近では新聞やテレビで老人の問題がよく取り上げられています。先日のNHKテレビでは、お年寄りが多くなった世の中を老人漂流社会と呼び、頼る人も、頼る金もなく公営住宅に住む独居老人の暮らしぶり、月10万円ばかりの年金から家賃を払った後に電気、ガス、水道代……、とわびしい生活が紹介されていました。

私の家の近所に「ゆめタウン」があります。食品売場を中心に洋品雑貨の売場や何軒かの飲食店、二階にはゲームセンターも在り、広い駐車場も備わった施設です。この施設が出来たために市内の中心商店街が寂れたと言われていました。ここの一階の中央あたりに十脚近くのソファが置かれ自由に休める場所があります。「ゆめ広場」と名付けられていますが、いつもお年寄りが集まっておられます。どういうわけか、男性が多く、数人の仲間が話し合ったり、熱心に読書にふけている方もあります。先日通りかかったときには貯金通帳を一心に見つめている人もありました。冷暖房完備、そばには飲み物の自販機も在り、暇なお年寄りにとっては格好の場所です。これも老人漂流社会の一面かと納得しました。ただ残念なのは、お歳暮やお中元の時期になると商品の展示に場所を取られ、折角の広場が隅に追いやられることです。

ところで、高齢化の問題ですが、国連では、総人口の中で65歳以上が占める割合を高齢化率とし、これが7%以上を高齢化社会と定義づけております。日本では、今から64年前の昭和25年(1950年)の総人口は8,411万人、65歳以上の高齢者は416万人、高齢化率は5%で高齢化という状態ではありませんでした。その20年後、昭和45年(1970年)総人口は1億0467万人、高齢者は740万人、高齢化率は7.1%で高齢化社会と呼ばれることになりました。さらに24年後の平成6年(1994年)に高齢化率は14%を超えました。7%から倍の14%を超えるまでの期間、フランスでは126年、スウェーデンでは85年、イギリスでは46年、ドイツでは40年かかっていることと日本の24年を比較しても、日本の高齢化が世界に例のない速度で進んでいることがわかります。そして現在は、総人口1億2,730万人、65歳以上3,190万人で高齢化率は25.1%、国民の4人に一人は高齢者という世界で最もお年寄りの多い国になりました。

この要因としては、医療の技術や関係施設が整備され寿命が延びたことによる高齢者の増加と、新しく生まれる子供が少なくなり、総人口が減り始めたことによるのだそうです。

夫婦二人で子供二人を育てるのでは、将来的には、人口は減るとのことです。しかし、ご近所の方たちにも子供さんは二人が多いようですし、私自身も子供3人ですが、孫は、それぞれに2人です。以前、ある政治家が、「女はもっと子供を生むべきだ」と言ってひんしゆくを買ったことがありましたが、安心して子供が産める環境を整えることが問われていると思います。

入江さんは、以前から若いお母さんたちの子育てや、お年寄りの問題を地域の課題として取り組んできましたが、昨年からは介護の一部を市の行政として担当するよう制度が改正されたことに伴い、入江さんの益々の活躍が期待されています。どうか皆さん方のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

(平成26年度高齢社会白書 発行内閣府 参照)

# 平成27年度予算編成方針から

～安心して子育てや教育ができるまちづくりを目指した山口市の体制作りとして～

## 1. 子育て、子育て環境の整備

- 子ども・子育て支援新制度のもとで保育所の整備の促進、認定子ども園への移行、地域型保育事業などの取り組みを展開する。
- 放課後児童クラブは第3学級の整備を進める。
- 子育て世帯の経済的支援、小学校就学前までの乳幼児医療費の本人負担額の無料化の継続。  
「こども医療費助成制度」について、対象学年を段階的に拡大していく。
- 産科医等の確保に向けた分娩手当の補助やひとり親家庭医療費の無料化の継続
- 奨学金の既存制度については定住促進施策につながるよう研究する。

## 2. こどもの教育環境の充実～教育なら山口～

- 普通教室のICT教育のさらなる環境づくりと設備導入する。
- 「日本一本を読むまちづくり」に向けた読書環境を充実させる。
- 児童一人ひとりへのきめ細かな事業実施のために独自配置する補助教員や支援員を増員する。
- 郷土の歴史や誇り、芸術や伝統的工芸品、創造的な文化芸術活動等に触れ合う場づくりを進める。
- 市立幼稚園のみが立地する地域における3歳児保育を実施する。
- 低所得者世帯の子どもの学習支援の場づくりに取り組む。
- 地域や家庭と連携した見守り活動や交通安全指導を行う。
- 不登校のカウンセリングを行い児童・生徒に寄り添う。
- 教育現場と地域等が連携したいじめ対策等に取り組む。

久しぶりに山口を舞台にした大河ドラマ「花燃ゆ」が始まりました！！

この一年間、毎週日曜日午後8時は家庭でまた仲間と共にドラマを見たいものです。

吉田松陰語録

「至誠にして動かざるものは、未だこれ有らざるなり」

「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、

実行なき者に成功なし。故に夢なき者に成功なし」

「志を立てて持って万事の源となす」

背筋が伸びる言葉ですね。 本年もどうぞよろしくお願いいたします。 入江幸江

お知らせ



やまぐち子育て四訓(shikun)の会

巡回講座 in 仁保

日時：平成27年2月3日(火) 仁保地域交流センター 午後1時30分～3時

内容：「子育て四訓」を学ぼう！！

講師 緒方 甫氏 (元中学校校長 元山口市教育委員長)

皆様のご参加をお待ちしております。



平成26年

9月定例議会（2014年9月1日～9月22日）

質問： 子ども・子育て支援新制度について

- ① 平成27年4月から本格スタートすることも・子育て支援制度の新たな視点について。
- ② 「児童クラブ」が「放課後児童クラブ」と名称が変わり、これまでは屋間家庭に保護者がいない小学校3年生までが対象でしたが、6年生までになります。その方策を問いました。

答弁： 太田健康福祉部長

① 新制度は多様な認可事業者が各施設等を運営されるにあたり、乳幼児期の保育者が、子どもの育ちに関して共通した目標や視点を持って保育に取り組む為の理念を作成し共有できる仕組みづくりが重要と考えています。また、地域型保育事業が円滑に実施できるよう必要に応じて公立保育園が中心となり保育内容に対する相談、助言や集団保育体験の機会等の支援を行いたい。

さらに、幼児期の教育、保育、地域の子育て支援を一体的に推進していくためには、幼稚園や保育園、地域子育て支援拠点、育児サークル等の保有、子育て・支援関係者の子どもの育ちを支える顔の見える連携を図ることも人材育成の面におきまして重要と考えております。4月に開設したやまぐち子育て福祉総合センターが中核となり、研修メニューの構築やサロン機能により、保育、子育て支援関係者のネットワークづくりを図りたい。

② 子ども・子育て3法のうち児童福祉法の改正により対象年齢が引き上げられました。本市では調査結果から低学年児童1,700人程度、高学年児童380人程度合計で、2,080人程度の希望を調査いたしました。

中規模の小学校におきまして整備を進めている第2学級の新設を図りつつ今後、新設の必要のある学校区につきましては、希望等を踏まえ第3学級の新設を検討いたしますが、これまでの地域組織の運営による学校敷地内での新設を基本としつつ、さらに、近隣の幼稚園や保育園等の教育・保育施設による小規模な放課後児童クラブの設置につきましても、併せて検討・調整を進めていく事で、放課後児童クラブの充実整備を図ってまいりたいと考えているところです。

質問： 家庭と地域社会との連携を生かした道徳教育について

- ① 小・中学校へ配布されている副読本は家庭に持ち帰り親子で読んでほしいという狙いが文科省にはありますが学校の対応について。
- ② 今後教科として道徳が導入されれば指導者の研修や資質の向上が求められますが、どのような指導をされておられるのかを問いました。

答弁： 岩城教育長

- ① 道徳通信を家庭に配布したり、毎月道徳の日を設定して、道徳の時間に使ったノートを持ち帰らせたりすることで、家庭内で子どもと保護者とが話し合うきっかけづくりを行うなど市内の学校が創意工夫をしています。副読本も適宜持って帰って積極的に活用するよう勧めています。
- ② 道徳指導力アップセミナーや推進校の研究成果を発表する道徳授業セミナー等、さまざまな研究会への参加を積極的に呼びかけながら指導者の育成、資質向上に努めています。県の指定を受けて大内中学校が道徳教育推進校として、「やまぐちっ子の心を育む道徳教育プロジェクト」に取り組んでおりますことから、支援しながら実践の成果を市内の各学校で共有して、豊かな心を育む道徳教育を推進して参ります。



質問： 「日本一本を読むまち」について

- ① 市民の利用拡大と満足度について
- ② 移動図書館車運行の見直しについて
- ③ 日本一本を読むまちになるための取り組みについて問いました。

答弁： 岩城教育長

- ① 市内6館（本館・小郡・秋穂・阿知須・徳地・阿東）がネットワークシステムでつながり、全館を一体的に運用できるようになり、63万冊がホームページ上で検索可能となりますとともに、本を予約して近くの図書館や地域交流センターで受け取ることも可能となりました。
- ② 移動図書館車の運行計画を見直し、33ヶ所から36ヶ所に増やし、さらに臨時運行してイベント（大内祭りなど12ヶ所）などにも出張するサービスも行っております。
- ③ 電子書籍の導入の検討や情報技術を活用した新しいサービスの研究を進めていくとともに市内の地域交流センターとも連携し、本を媒体とした地域の交流の場づくりの可能性も研究して参りたいと考えております。



12月定例議会（2014年12月1日～12月18日）

質問： オープンデータについて

- ① オープンデータの活用と税額明示サービスなどのアプリの活用について

答弁： 野村総務部長

① オープンデータの公開は市民生活の利便性の向上と新産業創出による経済の活性化も期待できますことから国や先進自治体の取り組みを参考にしながら公開可能なデータを出来ることから順次公開していくことを基本姿勢として取り組みを進めます。この度公開型地図情報システムであるオープンマップをリニューアルし地図情報の一部をオープンデータ化致しました。生活者の視点に立ったアプリケーションは行政情報のオープンデータ化がサービスの提供につながりますことから情報を保有している各課との調整、連携を進めながら取り組んで参りたいと考えております。

質問： マイナンバー制度への取り組みについて

- ① セキュリティの強化策の取り組みについて問いました。

答弁： 野村総務部長

① 山口市情報セキュリティ基本規定及び各種内規の周知徹底を図る観点から設問に解答させる形での情報セキュリティ自己点検を、毎年全職員を対象として実施しております。また、情報セキュリティ研修も行っています。今後も個人情報保護の保護対策を引き続き徹底することや集合研修など、最大限の注意を払って取り組みを進めたいと考えております。



質問： 花きの振興に関する法律について

- ① 花に触れる機会の創出について
- ② 花きの生産基盤の整備や産地の育成、花き文化の振興について問いました。

答弁： 山根教育部長

① 児童・生徒に対する花きを活用した花育の推進を図るため全市的な花いっぱい運動や花壇コンクールをこれからも開催し、草木の持つ生命に対する優しさや美しさを感じる心を育てる花育を推進したい。

答弁： 江藤経済産業部農林水産担当理事

② 現在も行っている施設整備に対する単県補助事業への上乗せ補助や水田フル活用ビジョンの着実な実行により、産地の育成等を図り、施策としては、生け花、盆栽等生活空間を飾るものもとより、屋内緑化等快適環境の創造や花と緑をテーマとしたイベント開催、フラワーツーリズム等人をつなぎ、コミュニティを想像する取り組み、また園芸療法や情操教育といった園芸活動の社会的効果を活用した福祉の増進等様々な取り組みが想定されることから既存事業の充実や見直しに加え施策横断的な新たな取り組みにつきましても研究して参りたいと考えております。